

## 各事業の事業報告

### 生活介護事業

- 令和2年度は、利用者様の帰省が10月と11月の2回のみ実施されただけであった、その為、比較的充実した生活介護事業を実施する事ができていた。各活動実績は各担当の報告書に記載しているが、帰省できない利用者様の為に、「あかねバンド演奏」や「綿あめ作り」など様々な活動を実施する事ができた。斬新だったのが、「外部からのオンライン音楽会」でZOOMを利用して音楽会を実施し人との新しいつながり方を実施する事ができた。
- 保護者会より、楽器やプロジェクターなどの寄贈を頂き、それらを本事業の中にて最大限に活用した。
- 法人内のサービスを利用される利用者で、外部就労されている方がコロナ過において仕事が激減した際にも、受け入れることが出来るようになっておりその点セーフティネットとしての役割を担っている
- 年度の初め頃だが、コロナ過の為に講師の先生方が数か月いらっしゃらない時期があったが、職員が講師の行っていた事を自分たちで実施している様子があった。講師の方々の日々の指導と職員の気持ちとマッチングしている様子が見れた。利用者様も楽しそうに利用されていた。
- 「リハビリの提供」を計画しており令和3年5月からの実施を行う予定である。リハビリの取り組みに関しては、今まで必要性がある事は理解していたが「ワーカーズケアの理学療法士」を招き、一人ひとりにあったアセスメント計画を作成し、今まで職員では気づかなかった支援を実施予定である。それにより利用者様の健康寿命を延ばし、長生きして頂くことは勿論の事、支援する側も支援がスムーズになるメリットがある。また、今まで気づかなかった目線の支援方法を学ぶことができ、さらに安全な支援が目指せる。保護者の方々からのニーズも答えられる取り組みを行う準備を実施した。

### 入所支援事業

- 令和2年度は、新卒の男性利用者様が入所されたが、集団生活が初めての経験ともあって精神的にも不安定な時期があった。徐々に慣れてこられているが帰省への想いは変わらずもたれている。また、高齢化が顕著になっており、心拍数や呼吸状況、脈拍、離床状況などを測定できる「aams（アームス）」という介護機器の導入を行った。今まで職員が「目視で確認していたが居室での急変に気づかずに急変する」事が起こりやすい状況であった為、介護機器を導入することによって双方にとってより安心・安全な時間を過ごすことが出来ている。今後は、この様な機器の導入が増加すると考えられる。
- 夜勤者に看護資格を持った方が入職され、安心感が増加している。今後も看護師の積極的な採用を実施する

### 短期入所事業

- 令和2年度は、新型コロナウイルスの状況が悪化したため、事業利用者はいませんでした。

## 就労継続支援B型事業

- 令和2年度は、コロナ過において、就労で作成した商品の販売先がなくなった。また、監査にて「商品の在庫も売り上げとしてカウントされる」との指摘があった為、職員一同で販売を実施した。購入先も見つかり工賃の継続も実施できた。商品に関しても、「印鑑レス」になってくる為、現在の商品の改善を行っていく事が必要となる。
- 利用者工賃は少しずつ上昇している。また、一般就の利用者様の仕事激減に伴うセーフティネットとしての役割も大きく貢献する形となった。
- 注文を頂いた商品がかなり細かい作業を有する為、今まで縫いを行っていなかった利用者様もチャレンジする事となり結果として、新しいスキルが身につくという嬉しい結果もあった。

## 共同生活援助事業

- 入居者の皆様は、大きな病気やケガもなく元気に過ごされていた。現在、入居者の方の年齢層が広くニーズも幅広いため世話人や職員の支援スキルの向上が必要となる。特に認知症や全盲の方への支援を充実させる必要があると考えられる。
- 一般就労先への通勤と勤務について、随時様々な情報にて判断する場面があったが、一番リスクの低い方法を選択し現在のところ罹患せず収入も安定する事となった。
- グループホームはニューローズガーデンには消火設備一式（スプリンクラー）を設置済みであったが、消防署からの指摘によりパンジーにも「消防感知器」の設置を行い、消防署からの認可を得ている。消防法の改正には特に注意をしながら運営を行っていく。
- 各グループホームの老朽化が顕著になってきている。
- 毎週末に行っている神社の清掃に関して、地域の方々お褒めの言葉を頂いており、地域社会との共生を実施している。

## 法人全体を通じて

- 令和3年1月に職員全員にPCR検査を実施するなど、コロナ対策においては全精力を傾けている。また、「新型コロナ対策委員会」の創設、毎月の会議、緊急会議の実施など、随時、様々な対応できる準備をしている。特に発熱者の対応などには細心の注意を払いながら地域医療との連携を図ってきた。また、職員の毎日の体温測定実施や毎日の全館消毒などを行っている。課題として、「個室対応」が現状では非常に難しい状況である。
- 新規職員採用に関して、オンライン面接など現状に合わせた対応を行っている。また、業種に合わせた求人方法のヒントが合ってきたように感じる。現在、職員平均年齢は徐々に若くなってきており、さらに活気がある職場になってきている。
- 職員研修については、社内研修および、「ZOOMやYOUTUBE」を使ったオンライン研修を積極的に取り入れている、外部研修と違い、社内である程度受講しやすい時間に受けれる事が新たな発見である。今後は新人研修の充実と管理職の研修をおこなっていく